

武田信玄の三女 眞理姫、と毛利氏



戸山 恵子

(会員・佐伯市匠南区)

もうすぐ三歳になる我が家の次男
名前を「信吾」といいます。親の願
いがこめられていると言いますが、
三人目で次男のこの子の名は、母親
の私が決めたようなもので、この「
信吾」にとても満足しているのです。
信吾の「信」は信じるの「信」。神
を信じ、人を信じ、人に信頼される
人間になってもらいたいという願い
そして、・・・もう一つ、それは、
私の大好きな「武田信玄」の「信」
なのです。

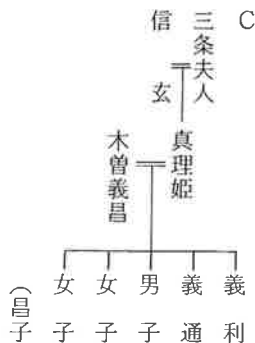
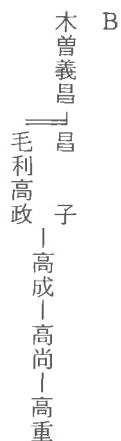
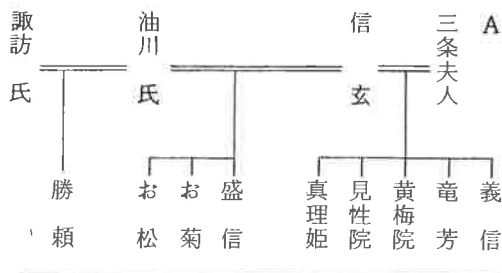
もう長いこと待ちに待ったかいが
あって、武田信玄がNHK大河ドラ
マの主人公に決った時の嬉しさ。昨
年の伊達政宗が好評だっただけに、
同時代のものを続けて大丈夫かしら
？という懸念はあったのですが、ま
ずは順調なすべり出しのようで、毎
回楽しみに見えています。主役の中井

貴一が、従来の「信玄」のイメージとは異なるので、慣れ
るまでは戸惑うでしょうが、何より我が家の信吾君、テ
レビの信玄を指さして「ボクの信玄、ボクの信玄」と言
いますし、大井夫人の若尾文子さんを「コレ、ボクのお
かあさん」と呼んで、私を喜ばせてくれるのです。

さて、この信玄とですね、私の住む佐伯が、意外な所
でつながっていた・・・のかもしれないってこと、つい
最近、発見したんですよ。

毛利高政、あの初代藩主のですね、正室が昌子さんと
いって、木曾義昌って方の娘ということになっているん
ですよ。この木曾義昌の正室にね、かの武田信玄の三女
眞理姫って人がいるんですよ。つまり、高政の正室「昌
子」が、眞理姫の生んだ娘なら、毛利家には、れっきと
した武田家の血が入っていることになるから、すごいで
しょう。そうなると、二代藩主高成は、信玄のひ孫にあ
たることになります。

系図をご覧ください。おわかりになるでしょう。なぜ
すごいです。それは、当時、あの家康でさえ信玄を尊敬
するあまり、信玄の血を引く女性達を次々に側室にして
いるんです。武田信玄って方は、あの時代、軍神、その



(昌子?)

れます。

長女は北条氏政、次女は穴山梅雪、三女が木曾義昌、四女菊姫が上杉景勝、五女松姫が信長の長男信忠と婚約。それを系図にしますと、次

頁上段のようになり、戦国大名そのものが大きなファミリーのようになるんですね。が、現実はずにあらず、北条・今川・穴山、すべて武田家と離れて行きます。信玄亡きあとは、どんな近い親戚でも簡単に裏切ります。武田家は信玄あつての家臣団。いわば、信玄そのものが宗教のようだったんでしょう。逆に、父信玄の時代では、宿命のライバルだった上杉家とは、菊姫を通じて固く結ばれていく。

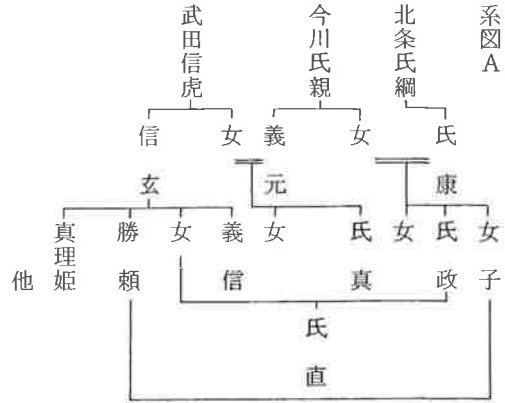
不思議な気がします。あの信長でさえ信玄の実力を十分知っていたでしょう。

自分の養女を勝頼の正室に、長男信忠に五女松姫をと、自ら願っているんですね。なんとでも信玄との一戦



ものだったんですね。若き日には、あの美方ヶ原の戦いで、徹底的に打ちのめされた家康も、その敗戦を教訓にして、ついには天下を取ったんだと思います。武田家も勝頼で滅びますが、信玄の血は細々ながら続きます。特に、彼の五人の娘の生き様にはそれぞれひか

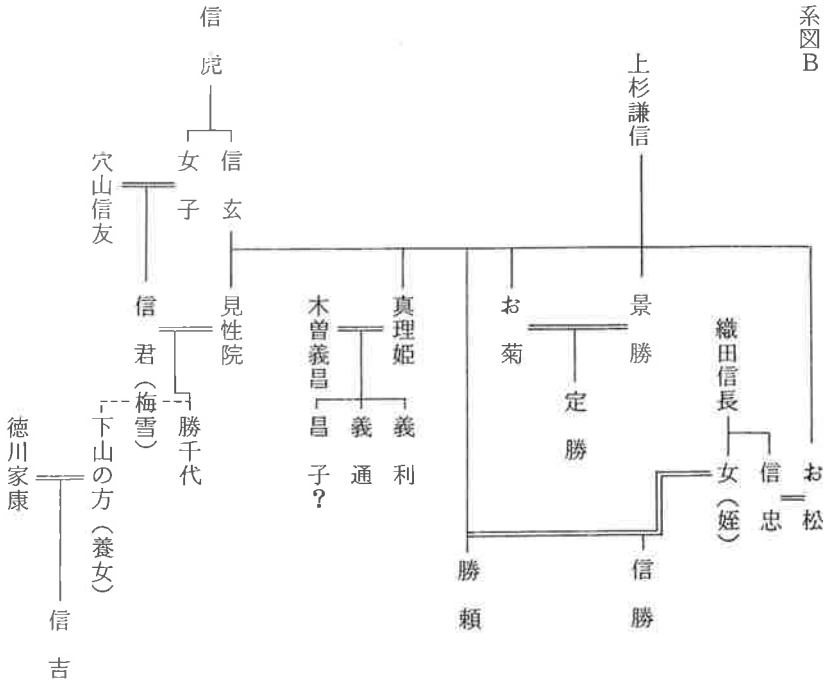
系図 A



はさげなかったのか、それとも勝ち目はないと判断したのでしょうか。歴史に「もし」があるのなら信玄があと十年生きていたら、その後の信長・秀吉・家康の時代はどうなったでしょうね。

信玄があのまま上洛を続けたら信長との衝突は必至で、その点、

系図 B



危機一髪の幸運を信長はつかんだと言えますね。将に「運」としかいいようがありません。

さて、この辺で本題に戻ることしましょう。

この時代の女性は、今の私達が想像するような、略婚させられて泣く泣くお嫁に行く、なんとかわいそうなお姫様。そんなイメージ。だが、最近私はそんなイメージは全く違っていることがわかってきました。

結婚は「両性の合意のみ」成立するようになったのはこの四十年、戦後になってからでしょう。当時の結婚といえば、(庶民は別にして)決して個人的なものではなくて、家と家、国と国との交渉で、女性は実家代表の外交官としての役割があったと思うんです。恋愛の経験なしで結婚しちゃうなんてカワイソウ・・・と思いがちですが、そもそもこの時代のお姫様は恋愛結婚など知らなかっただろうから、それは、洗濯機がなかった頃の女性が川でゴシゴシ洗濯していても(自分達はかわいいそう)と思わなかったのと同じやないかと思うんです(たとえが悪いかな)。

逆に考えれば、彼女達は、案外この略婚結婚を誇りに感じていたかもしれないでしょう。なぜって。それは、

嫁ぎ先はなかなか気を許せない相手でしょう。そこで、彼女の手腕をもって実家との間をうまく取り結ばねばならない。つまり、それができると見込まれてこそ嫁いで行ったのだから・・・。馬鹿ではつとまりませんね。そのいい例が、信長の妹の「お市の方」だと思っんです。信長には他に姉妹が沢山あるのです。その中で、なぜ彼女だけが他国の大名クラスの浅井家へ嫁いだかというよりは、兄信長が彼女の手腕を見込んだからだろうと思っんです。また、ここで「もし・・・」を出しますが、信長はなぜ、この当時のミス日本とも言えるお市の方を武田家へ嫁がせなかったのでしょうか。勝頼とお市のカップル、戦国史はどう変わっていたことでしょうか。面白いです。ですから、この時代の女性には特に興味を覚えます。中でも、長年のファンである信玄の娘達、その中の三女真理姫にひかれるのは、毛利家への関わりもさることながら、彼女の意志の強さといったものにひかれるのです。

真理姫七歳の時、木曾谷に進攻した信玄に、頑強に抵抗していた木曾義康・義昌との和議の証しのために送り込まれました。幼な妻だったんです。

木曾家は、あの木曾義仲の後裔の名家。信玄の突然の死により武田家の前途に暗雲が漂い始めると、義昌は、次第に隆盛の織田信長に気脈を通じるようになり、木曾家安泰を条件に、武田の戦列を離れます。妹婿義昌の謀反に怒る勝頼は、木曾討伐の兵を動かしますが、信長の支援があつて敗退します。以後、武田家は、山道を下るように滅びの一途をたどります。なお、義昌は、信長・秀吉・家康と主君を替え、下総国網戸に一万石を受けますが、その子義利の時に領地を没収、以後、義利の行方はわからず、真理姫は赤子義通を連れて、かつての領地



この地で、当時としては驚くべき長寿九十八歳で亡くなっています。

さて、真理姫が木曾へ移ったことについては、各歴史家のみなさんの評価はまちまちです。

実家武田家を裏切

り、その後、信長・秀吉・家康と主君を替えていった夫の無節操さを憤り、その反抗からという見方と、あくまで木曾家再興を願い、子義通と共に元の領地の木曾で、その機会を待っていたのだとする見方。

私は後者だと思えます。戦国時代と江戸時代では女の地位もさることながら、武士道そのものが違っていたんですよね。当時は強い者が正義であつて、どちらにしたら自分の得になるかが全てだったんですね。あの関ヶ原の合戦をみればおわかりでしょう。

だから、信玄亡きあと、信長についた夫は、それなりに時代を見る目はあつたわけで、女性外交官としての彼女の役割は、父信玄の生きていた時は發揮できても、異母兄勝頼には通用しなかつたのでしよう。それに、七歳から実家を離れている彼女は、武田家の滅亡を嘆くより木曾家再興のためにこそ労したんだと思うのです。九十八歳まで生きたという事実こそに彼女の執念みたいなものを感じませんか。

彼女の子達には、信玄の立派な血が流れています。あるいは、その中の一人を立てて、武田家を再興できるかもしれないのです。彼女は義昌との間に三男三女をもう

けています。

かくも私が信玄の血に執着するのは、武田家が滅びて何年か後に、信長が本能寺で亡くなると、周辺の大名がそれぞれに信玄の血筋という大義名分を立てて、それを横どりしようとしています。

まず、北条氏政。彼の妻は信玄の長女。妹が勝頼の後室。長子氏直は信玄の孫です。

同じく上杉景勝。妻の菊姫のつながりで、一子定勝もまた信玄からみれば孫にあたります。

それから、真理姫のすぐ上にあたる姉の見性院。彼女の夫は穴山梅雪といって、武田信玄の姉が母となっているので二重に武田家とつながり、親類頭のような立場にあったものです。特に見性院は、信玄と正室三条夫人の間に生まれたお姫様で、側室腹の勝頼とは違うというプライドがあったでしょう。穴山家こそ武田家の後継者にふさわしいとも思ったのでしよう。家康も認めただ上で、二人の間に生まれた勝千代に「武田」の姓を名乗らせません。この子が若くして亡くなると、今度は穴山夫婦の養女で家康の側室下山の方と呼ばれる女性の生んだ万千代を、信玄の「信」を取り、「信吉」として、武田家を再

興したのですが、この子も若くして亡くなりました。そして、ついに武田家再興はかなわずじまいに終わりました。

だから、もし、もしですよ。かの毛利高政がどこか甲州辺にいたら、きっと、信長亡きあとのゴタゴタした時にどさくさにまぎれて木曾谷に入り、真理姫の悲願であった木曾家再興ぐらいできていたと思いませんか。

それはともかく、この真理姫、本当に高政の正室昌子さんを生んだんでしょうか。誰かご存じの方教えて下さい。

このあとに、NHK大河ドラマ「武田信玄」について時代考証のあやふやさ、湖衣姫に対する信玄のあり方、諏訪頼重のいきさつなどについて、耳の痛い批判がありました。紙面の都合で略させていただきました。あしからず。

戸山さんの電話番号は 二四局〇八四〇番です。